

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171200316
法人名	有限会社 祥
事業所名	グループホーム さくらんぼ
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字堤1907-1 (電話) 0952-52-0208

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年2月20日	評価確定日	平成21年5月8日

【情報提供票より】(平成21年1月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	22	常勤 12人,	非常勤 10人,	常勤換算 8.6人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建造り
------	---------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	3,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	62 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田尻外科・胃腸科 東佐賀病院 三樹病院 高森歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>国道沿いに立地し、室内は木目を基調とした色のコントラスト、静かな環境で心をなごませてくれる。職員は理念に基づき笑顔をもっとに介護に当り穏やかな時の経過がある。入居者のよりよいサービスを目指してスタッフ全員で努力したいという熱意を持ってケアが行われている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との付き合いでは子ども110番を引受けゴミステーションを敷地内に提供、運営推進会議への地域代表の参加も毎回あっている。場所間違い防止の為に、役割楽しみごとの支援の為に物品の提供等、改善の取り組みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価表を各職員へ回覧し、運営者、管理者を含めて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月毎の開催でグループホーム側からの各種報告はもとより福祉に対する最新のニュースや疑問、質問迄活発な意見交換が行われ、ホームへの理解も深まっている。議事録もきちんとまとめられている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談窓口担当者の明示、苦情箱の設置もなされている。意見等は謙虚に受け止め話し合い改善に結び付け、結果をきちんと報告する必要性も理解している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議を中心に理解が深まっている。今後も地域の方々が気軽に訪問出来る様な雰囲気作りと地域で必要とされる活動や役割を担っていく取り組みを検討中である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気での介護をモットーとした理念を分かり易い言葉で玄関に提示している。	○	これ迄の理念に加えて地域密着型サービスとしての役割を反映した理念づくりにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「自分が楽しくなければ良い介護は出来ない」をモットーに日々の実践に取り組んでいる。朝礼時には理念の唱和を行い職員の意識付けを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃の挨拶は勿論、回覧板も廻り、近隣との顔馴染みの関係が運営推進会議を契機に前進している。子ども110番、ゴミステーションの提供などにより地域との関わりを持つとともに、文化祭への作品出品も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を介護を振りかえる良い機会ととらえ、評価で明らかになった課題はサービスの質の向上に向け改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地区、家族代表も含めての会議が2ヶ月毎に行われている。会議は報告のみに終わらず活発な質問等も出されホームを理解、支援する重要な話し合いの場として定着しつつある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	最新の福祉情報の収集やホームの問題解決の為の要望、相談、助言等その都度行政と連携をとりながらサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	本人の様子やホーム全体の様子、金銭管理も含めて毎月1回ホーム便りで報告し、家族も楽しみにしている。又、面会時も必ず声かけを行い各人に合わせた報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の面会時に日頃の暮らし振りを報告すると共に家族からの意見や要望を伝えてもらえるよう、積極的に声かけを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は固定化し、なじみの関係を重視した介護を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には外部研修の情報を伝え研修への参加を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを管理者や職員が訪問するなどし交流を深め、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の見学、面談等で、不安の解消に努め、安心と納得した上でサービスが利用出来る様な利用開始前の準備期間を作っている。体験入居も行うことが出来る。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を常に人生の先輩として接し、支援する側、される側にとらわれない、感謝する気持を双方が持てる様な関係作りに努め介護に当たっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情、行動から思いや意向を汲み取ったり、意思疎通が困難な時は家族、各書類から情報を把握し本人本位の支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望をまず聞くとともに、日々の介護に当る職員の意見を反映させながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しは基本的に3ヶ月毎とし、状態変化時は随時見直しを行い現状に即した新たな計画になっている。独自に実施経過表が記入され、評価も連結している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間体制の協力医療機関の確保と共に週1回の健康診断も兼ねた訪問診療が行われている。又、職員による通院介助や外出や外泊等の送迎にも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望を第一に考えながら、協力医療機関の医師による訪問が定着している。他科受診時は紹介状にて対応し、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。家族へもきちんと報告がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りの指針について説明を行っている。職員と協力医との連携は出来ているがまだその経験はない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を重視した声かけや入浴、排泄等の支援が行われている。個人情報の取り扱いにも注意がはらわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の生活リズムを大切にしながら楽しみや役割り等を持てるよう、さりげない物品の提供や声かけがなされている。決して強制は行わない介護に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な陶器の器で食事はゆったりとした時間の流れの中で楽しむことが出来ている。職員による気配り、介助は十分になされている。しかし、検食以外に、職員と一緒に食事をする事はない。	○	グループホームの特性をふまえて職員も一緒に食事を楽しめるような食事のあり方についての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調を見計らいながら入浴時間は可能な限り夕方までと予定し隔日で実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の後片づけ、洗濯物整理、水やり、趣味の分野での物品もさりげなく準備がなされ、意欲の向上へもつなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天候等を考慮しながら日々の散歩や日用品の買物等外出の支援をしている。月1回はバスハイクとしての外出支援もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事の弊害は全職員理解しているが国道沿いという立地条件と入居者の状態から日中玄関に施錠している。入居者、家族の同意を得ている。	○	弊害を理解した上でのことではあるが、自由な暮らしの意味からも入居者の安全を確保しながら日中鍵をかけないですむ一層の工夫を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1回目は消防署立会い、2回目は防災納入業者による消火訓練と入居者も含めて避難訓練を年2回定期的に実施している。地域住民、消防団へも運営推進会議や、回覧文書で参加依頼協力を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は総て外注により配達形式になっている為献立、カロリー計算迄なされている。食事、水分摂取量は個人毎に記入され、職員はそれを共有している。水分補給は特に注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体が木目を基調とした落ち着いた環境で随所にソファや椅子が置かれくつろげる様になっている。浴室も自宅の延長ととらえられた設えになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い馴れた好みの物品の持込を説明している。小物類は勿論、テレビ、仏壇、シルバーカー等の使い馴れたものがあり身体機能の維持や安心へも繋がっている。		